

芦屋こぼと保育園 施設自己評価

実施月: 2026年3月

※スコアは4:理想的な状態(改善の必要なし)
 3:工作上支障はないが改善の余地がある
 2:円滑に仕事を進めるには改善の必要がある
 1:できていない、または大幅な改善が必要

| No. | 評価項目 | スコア | 園長のコメント |
|----------|---|------------|--|
| 1 | 基本的理念と社会的責任 | 3.2 | 自分の子どもを預けたい保育園か?を目安に、ふさわしい場となるよう日々保育をしているが「最も」とすると改善の余地はあると思う。 人権、文化の違いについては、職員が大切にされ、園児も大切にされる循環があると思うので、保育園全体(保護者、地域も含め)がそのような場であることを意識している。 保育の質の向上には限りがないと思うので、今後もみんなで向上していきたい。 |
| 1 - 1 | 子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場となっている | 3 | |
| 1 - 2 | 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを互いに尊重する心を育てるよう日々保育が行われている | 3 | |
| 1 - 3 | 性差への先入観による固定的な観念を植え付けないよう日々保育が行われている | 4 | |
| 1 - 4 | 子どもの特性や発達の過程に応じ、発達のねらいや方針に即した援助ができています | 3 | |
| 1 - 5 | 子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って活動できるような援助ができています | 3 | |
| 2 | 保育の配慮事項 | 3.4 | どの職員も全身全霊で保育を行っている。スキルとしても知識としても伸びしろは果てしなく有ると思うので3とした。 保育室の狭さにより机の常設ができない等、思い描く環境にはなっていないように思う。できる範囲で創意工夫をしている。 |
| 2 - 1 | 子どものその時々のお気持ちを受けとめて保育が行われている | 3 | |
| 2 - 2 | 職員が入園から就学(卒園)までの発達の連続性をイメージ・理解して保育をしている | 3 | |
| 2 - 3 | 園内や保育室など、子どもが安心できる雰囲気を作ることを心掛けて環境を構成している | 3 | |
| 2 - 4 | 個人情報の取り扱い方についてマニュアル等が整備され、職員へ理解を促すことが出来ている | 4 | |
| 2 - 5 | 保護者のご意見・苦情に対する対応をマニュアル、研修などに手周知されていて、発生時は適切に対応できている | 4 | |
| 3 | 計画・評価・育ちの見直し | 3 | なかなかディスカッションまで深く話し込む時間が取れていないが、共有はできている。 全体的な計画が年間計画に落とし込めるよう、また月案につながるようフォーマットの改善を行った。 年間→月案、振り返りの流れの意味とポイントを先輩保育士の経験や考え方を共有する時間を持ったので今後に期待している。 自己評価を年2回行い、それを基に園長面談を実施。自己啓発やアドバイスを受け次期に発揮している。 |
| 3 - 1 | 全体的な計画、年間指導計画により、長期的な見直しをもち、職員が共有し、ディスカッションできる場がある | 3 | |
| 3 - 2 | 保育目標やねらいをベースに、各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画を作成している | 3 | |
| 3 - 3 | 日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、年案、月案、週日案が作成されている | 3 | |
| 3 - 4 | 子どもの実態や状況の変化に応じて、保育の振り返り、見直し改善を行っている | 3 | |
| 3 - 5 | 職員がチェックリストによる自己評価を実施し、自身の長所や課題を発見し、園長の支援のもと改善に努めることが出来ている | 3 | |
| 4 | 乳児保育のねらいと内容 | 4 | 安全に配慮したうえで、室内に滑り台を常設するなど起伏のある環境づくりをしている。 入園後初めての食事は保護者とともに実施し、形状や硬さなど味見してもらう。また食べさせ方などを確認している。給食職員も食事の様子を見に来る。 午睡センサーの利用と体に触れ呼吸チェックを0歳児は5分、1.2歳児は10分ごとに行い記録している。記録の大切さも伝えている。 |
| 4 - 1 | 発育に応じた行動(立つ、歩くなど)を自発的に行えるような環境づくりをしている | 4 | |
| 4 - 2 | 離乳食は、保護者、栄養士(調理員含む)と密に連携をとり、子どもの状況に配慮して提供している | 4 | |
| 4 - 3 | 午睡中はセンサーの使用問わず、体を仰向けにすることを職員全員が認識し、体温、顔色、呼吸のチェックをしている | 4 | |
| 4 - 4 | 生活や遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気づかせてさまざまなものに触れさせている | 4 | |
| 4 - 5 | 発声や喃語等を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている | 4 | |
| 5 | 1~3歳未満のねらいと内容 | 3.2 | 主体的な保育を意識して取り組んでいるが、改善の余地はあると思う。保育室、園舎の環境的な難しさがあるが、できる範囲で工夫を凝らしている。 子どもたちへの声掛けや仲立ちなど現状に満足することなく、より良い保育をめざし向上していきたいと思う。 園庭は狭いが、室内でも十分に体を動かせるように、室内で体を動かすための取組 |
| 5 - 1 | 子どもが自分でやろうとする、出来るようになると頑張る主体的な気持ちを尊重した保育が展開されている | 2 | |
| 5 - 2 | 他の子どもとの関わり方や集団生活を発達に応じて身につけられるよう日々保育が工夫されている | 3 | |
| 5 - 3 | 自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している | 3 | |

| | | | |
|-----------|--|------------|--|
| 5 - 4 | 公園や園庭など、積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している | 4 | かせるよつ、女出式体育あそびにも取り組んでいる。鉄棒等を使わなくても取組める体育あそびのレパートリーを増やしたい。 |
| 5 - 5 | 感覚の働きを豊かにする遊びや、全身を使う遊びを取り入れられるよう活動内容を工夫している | 4 | |
| 6 | 健康支援 | 3.2 | 健康診断等の結果を全ての職員が全て把握している訳ではないが、保育をするうえで必要なことは共有している。アレルギー児への対応は、献立作成時から配慮しており誤食が起きないように取組んでいる。しかし今年度、誤食事故があり再発防止のために話し合いを行った。担任不在時が発生の可能性が高く、フリーで入る職員も十分に気を付けること、他対応策を講じた。与薬についてはマニュアルにて対応を統一している。保護者とも共有済。 |
| 6 - 1 | 職員が、感染症に対する園の方針やマニュアルのポイントを理解し、行動している | 4 | |
| 6 - 2 | 健康診断と歯科検診の結果について、保護者や職員同士の共有が速やかに行われている | 3 | |
| 6 - 3 | 子どもの出生時から入園までの発育・発達の状況が十分に職員間で共有されている | 3 | |
| 6 - 4 | 食物アレルギー児への対応として、誤食が起きないための対策が講じられており、職員が理解している | 2 | |
| 6 - 5 | 保護者から与薬の要請を受ける場合や子どもに与薬する場合の対応方法を職員が理解し、適切な処置をしている | 4 | |
| 7 | 食育の推進 | 4 | 食育計画表を保護者と共有している(重説)。乳児の園だが、取り組みは豊かだと思う。野菜や果物の見比べや簡単なクッキングを多く行っている。給食職員が子どもたちにマナー指導を行っている。保育士がみな経験があるわけではないが、野菜の栽培方法を調べながら挑戦している。米作りもうまくできており、生長の様子を保護者や見学の方に紹介し興味を持ってもらえるようにしている。継続していきたい。 |
| 7 - 1 | 子どもが意欲的に食に関する体験ができるよう、具体的な食育計画を作成している | 4 | |
| 7 - 2 | 乳幼児に身につけておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている | 4 | |
| 7 - 3 | 調理員、栄養士、保護者と連携し、個々の食物アレルギーなどの情報共有を定期的に行っている | 4 | |
| 7 - 4 | 子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心がけている | 4 | |
| 7 - 5 | 園での食育活動をお便りや連絡帳などを活用して保護者に周知することが出来ている | 4 | |
| 8 | 安全管理 | 3.4 | 安全管理に関しては終わりが無いと思っているので、まだできることがあると思い取り組んでいる。自園、他園関係なく過去の事故例などを知ること、気を付けるポイントを知ることができる。また自治体から安全管理の連絡があった時は職員と共有するようにしている。公園の不具合はすぐに公園課に連絡している。 |
| 8 - 1 | これまで園内で起こった事故およびヒヤリハットを職員全員が理解し、定期的に報告、共有の場を設けている | 4 | |
| 8 - 2 | 睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを職員が認識し、事故防止に努めている | 4 | |
| 8 - 3 | 事故防止や安全管理に対する園の方針や園のマニュアルなどが整備され、職員が理解し、実践している | 3 | |
| 8 - 4 | 園内の設備、玩具、用具などの点検の仕方、ポイントを職員が理解し実践している | 3 | |
| 8 - 5 | 日常的に利用する散歩経路や公園などの異常や危険を察知し、必要に応じて点検している | 3 | |
| 9 | 環境・衛生管理 | 4 | 衛生管理、感染対策は看護師を中心にマニュアルを活用し、実施できている。 |
| 9 - 1 | 子どもが活動しやすい様に室内の温度、湿度、換気、採光などを適宜調整している | 4 | |
| 9 - 2 | 一人一人の子どもたちの服装、頭髪、爪などを定期的にチェックし、異常があった場合は職員間で共有している | 4 | |
| 9 - 3 | 感染対策を職員が十分に理解し、実践している | 4 | |
| 10 | 災害対策 | 3.4 | 年に1回は全職員に対してマニュアルの変更点や再確認を行っている。その際に消火器や火災報知機の場所を確認している。また年に2回水消火器を用いて消火訓練を行っている。全職員が全てを把握しているかチェックをしたことがないので4は付けなかった。職員が分かりにくい、覚えきれないことは、より分かりやすくしていく必要があると考え改善していきたい。 |
| 10 - 1 | 災害に対する園の方針などを打ち出し、職員に対して十分に理解を促している | 3 | |
| 10 - 2 | 園の災害対応マニュアルが周知されており、それに則り対応できるよう備えが出来ている | 4 | |
| 10 - 3 | 消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を職員が把握できている | 3 | |
| 10 - 4 | 保護者との連絡体制や引渡し方法のルールを明確にしており、保護者とも共有できている | 4 | |
| 10 - 5 | 職員全員がハザードマップを理解し、地震や豪雨の際の園から避難場所への適切な避難経路を把握している | 3 | |
| 11 | 家庭との連携(在園児) | 3.4 | 今日の出来事は丁寧に伝えられていると思う。保護者とのコミュニケーションも取りやすく困っている職員はいない。お |
| 11 - 1 | 保護者のお迎え時、職員は活動内容を伝えるだけでなく、学びや成長の変化を伝えることが出来ている | 3 | |

| | | | |
|-----------|---|-------------|--|
| 11 - 2 | 保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛け、対応している | 3 | 迎えラッシュなどで対応が難しい場面もあるが、先輩のアドバイスにより工夫で来ていた。 出来事と一緒に成長発達面のなど専門的な視点もより織り交ぜられるようにしていきたい。 |
| 11 - 3 | 日頃より保護者や子どもの様子を注視し、職員同士で共有する場を設け、虐待の予防や早期発見に努めている | 3 | |
| 11 - 4 | 家庭の状況を把握するため保護者と情報交換を行い、必要に応じて関係職員と共有できている | 4 | |
| 11 - 5 | 園だより、クラスだより、給食だより、保健だよりなどを、定期的（月1回程度）に発行している | 4 | |
| 12 | 家庭との連携（地域） | 3.33 | |
| 12 - 1 | 関係者評価や自治体など、地域の子どもについての保育ニーズを把握している | 3 | 地域に向けてはインスタグラムやHPで伝える事が出来ていると思う。地域の子育て支援の会にもたくさんの親子が通い、その場で親子ともに仲良くなるなど集いの場になっている。少人数で行っているので相談もあり、園の子どもの様子を見ることで安心する事もあった。 |
| 12 - 2 | 園の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかけるなど、地域交流できる機会を確保している | 4 | |
| 12 - 3 | 地域住民から受けた子育て相談の内容について連絡、相談する外部の関係機関を把握している | 3 | |
| 13 | 職員の資質向上 | 3.4 | 「到達と課題」を意識することで、振り返りをした際に「できた・できなかった」では終わらず、「次はどうすればよいか？」を考えるようにしている。その流れで保育の振り返りも自身の振り返りも行うようにしている。 全員と振り返りを終えた後、話し合いが必要なことは、相談し改善するようにしている。先輩職員だけでなく、若手同士でも意見が出るようになってきている。「ちいさいなま」を全員が読み、よかったページを紹介するなど共有できているのがとても良い。 |
| 13 - 1 | 園内・外で行われる研修や会議に職員が積極的に参加し、資質向上を図っている | 4 | |
| 13 - 2 | 職員が各々個人の自己評価などで課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいる | 3 | |
| 13 - 3 | 職員に対して定期的に保育に関する専門書や関係書を読むなど、保育知識を習得するよう促している | 3 | |
| 13 - 4 | 職員の保育実践について、上司や同僚から振り返り、助言をもらえるような機会を設けている | 3 | |
| 13 - 5 | 園の決定事項について、職員が納得できるよう十分に理解を促すことが出来ている | 4 | |
| 総評 | <p>本園の自己評価結果から、保育の基盤は安定しており、特に子どもの生活や安全、食育、乳児保育においては、丁寧な実践を積み重ねてこられたことを園の強みとし、自信を持って保育を行っていきたい。</p> <p>一方で、子どもの主体性を尊重した保育や環境構成、食物アレルギー対応、職員間のより深い共有といった点には課題が見られ、今後の改善が必要と感じている。</p> <p>園全体としては、自己評価や振り返りを通じて課題意識を持ち、保育の質向上に向けた取り組みを継続していきたい。</p> <p>本園が、園児にとっても保護者、職員、地域の方々にとっても安心安全である居場所であることを守っていききたいと思います。</p> | | |